

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-132	14-138	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Is alcohol binge drinking in early and late pregnancy associated with behavioural and emotional development at age 7 years? 妊娠初期と後期の不節制飲酒は子供が 7 歳に達した時の行動面と情緒面の発達に関連するか?</p>		
執筆者		
Niclasen J, Andersen AM, Strandberg-Larsen K, Teasdale TW.		
掲載誌		
Eur Child Adolesc Psychiatry. 2014 Dec;23(12):1175-80. doi: 10.1007/s00787-013-0511-x.		
キーワード		PMID
出生前アルコール暴露、不節制飲酒、幼児の発達		24390718
要 旨		
目的：		
<p>妊娠後期の飲酒が妊娠初期と比べて、幼児の発達と関連が低いと思われる。これは、結果をカテゴリカルデータとして分析した為かもしれない。妊娠初期と後期における妊婦の不節制飲酒と幼児の行動や感情の発達の関係について調べた。</p>		
方法：		
<p>デンマーク国民出生コホート研究を使用した。妊娠初期、中期、後期の不節制飲酒時期に従って、暴露群を 3 つに分けた。子どもの強さと困難さアンケート(SDQ)を用い、子供の内向/外向スコアを連続値とし、多動・行為問題・情緒問題・友人関係についてはカテゴリカルデータとしてデータ収集を行った。3 回の調査(妊娠 16 週目、30 週目、子供が 7 歳に達した時)で、不節制飲酒に関する完全な情報が 2 回とも取れ、7 歳児の完全な SDQ が取れた女性 37,315 人を研究対象とした。</p>		
結果：		
<p>母親の教育歴・精神疾患・年齢・喫煙を調整した解析で、胎児期初期と後期の不節制飲酒への暴露により、暴露を受けなかった場合と比べて、7 歳児の平均外向性スコアは有意に上昇した。多動・行為問題・情緒問題・友人関係については、カットオフ値を超えることと、不節制飲酒の時期に関連を認めなかった。</p>		
結論：		
<p>初期及び後期の妊娠中の不節制飲酒への暴露では、特に妊娠後期の暴露が外向性スコアの上昇と関連した。また、いずれかの時期に不節制飲酒をしたからといって、多動・行為問題・情緒問題・友人関係に関するカットオフ値超となるリスクが上昇することはなかった。</p>		